



悩むくらいなら 自分で変える

働きながら育てることが難しい国を改革

「女性の活用」が成長戦略というわりには、子育てに厳しい国。岩盤のような制度や慣習を変えようと奔走する母と父がいる。

筋書きのない
社会実習で、子どもの
生きる力を伸ばす



川島高之 (50)
コチカラ・ニッポン代表
2012年にNPO法人「コチカラ・ニッポン」を立ち上げる。イクメン支援のファザリング・ジャパンの理事も務める。親たちへのメッセージは「PTAや町内会などで働く、利害調整のスキルを学べ」

育児と仕事の両立 社労士として支援したい



働いて、子どもを育てる。そんな当たり前が難しい。制度の改革が極めて緩慢なテンポでしか進まない。それが、この国の現実だろう。

逆風に立ち向かう人がいる。横浜市都筑区仲町台、港北ニュータウンの一角を占めるこの街で、菊地加奈子(37)は、三つの顔を持っている。特定社会保険労務士、保育園経営者、そして5児の母だ。

商社勤務の夫と結婚、27歳で子どもができて会社を退職。専業主婦に。だが、第2子が生まれたところで育児に疲れる。夫が支えようと、会社で時短勤務を申し出た。そこで事件が起きる。夫がパワハラを受けたのだ。妻として経済的不安を感じ、労働管理に関心を抱き、社労士を志した。

大人になるころ

疑問を抱えていたある日、社会起業家を支援するNPO「ETIC」の育成プログラムに参加した。送迎や託児を頼り合う画期的な「子育てシェア」で成果を上げていた甲田恵子さんから、「悩んでいるんだったら、自分で変えればいいじゃない」と背中を押された。

4児の母になっていた。女の子が3人。

「この子らが大人になったとき、そう思うと、吹っ切れた。今までの社労士の仕事を転換。企業に、ワーキングマザーが職場勤務と子育てを両立できるよう、時短制度の導入や、人事制度の見直しを働きかけている。現在の顧客企業は30社だ。

2013年には地元で認可外保育園「青みの家 フェアリーランド」を設立した。保育士はみな母親。スキルはあっても、育児のため仕事をやめってしまう保育士を減らしたかった。14年8

推薦された人

菊地加奈子 (37)
特定社会保険労務士、フェアリーランドCEO
園長を務める認可外保育園「青みの家 フェアリーランド」(右)で、第5子の育児を担う菊地さん。特定社会保険労務士の資格は、第3子を妊娠中に猛烈勉強して取得したという

長谷川教弥 (29)
LITALICO代表取締役
障がい者の就労を支援し、2千人以上を就職に導く。発達障がい児の強みを伸ばす教育プログラムにも注力。「助成金に頼らないビジネスを貫くには、縁がないといけない。その意志を持つ」(坪谷さん)

堀江敦子 (29)
スリール代表取締役
子どものいる共働き家庭で、大学生が仕事と子育ての両立を体験するインターンシップ事業を展開。「日本ではまだ珍しいが、ワーク・ライフ・バランス上、重要な事業」(安藤さん)

水谷衣里
三貴UPLリサーチ&コンサルティング副社長
日本福祉総合研究所代表取締役
シンクタンク研究員として政策研究に従事するから、社会起業家を支援。1児の母。「社会起業家の陰にこの人あり。厳しくも頼りがいのある支援者」(甲田さん)

安永愛香 (40)
どんご会理事
日本福祉総合研究所代表取締役
Vilingホールディングス副社長
東京理科大学卒。1998年、自らの出産を機に保育園「メリーオピンス」を開園。以降、人間力を育てる「どんご保育」を各地に展開するほか、駅や企業、病院内の保育園も運営

月、5人目となる四女が生まれた。平均睡眠時間は3時間だが、「ストレスはありません。心の底からやりたいことをやっているから」(菊地さん)

ブैसेようとコメを作った。収穫したコメでハンバーガーを作った。そこで、ある児童が疑問を投げかけたという。「地域で売っただけで、日本の食料自給率が上がる。意味があるんじゃない?」

川島さんはひらめいた。NPOの活動として、「洋菓子のピロタ」に、小学6年生との共働によるコメを使った商品開発を持ちかけたのだ。

そこから限られた本気の、商品開発が始まる。

「仕事だから、プレゼンテーションもしつかりやってもいいま

白井智子 (42)
スマイルファクトリー代表
不登校、発達障がいの子どものための学校を運営。東大法学部卒。松下政経塾を経てNPOを設立。3児の母。「人脈を生かしながら周囲に働きかけるスキルなど、柔軟な能力を持つ」(小島さん)

竹村真紀子 (40)
IWGJ代表理事、ヒーローズエデュテイメント取締役
駐日大使館の協力のもと、子どもが各国の小さな親善大使として活動するプログラムを行う。2児の母。「真の意味でグローバル人材を育成。大使館と共働する発想が斬新」(坪谷さん)

田中俊之 (39)
筑波大学社会学部助教
男性学で「男」を捉え直す。「男性が好きのように生きよう」と解放されれば、女性に固定的な役割を求める社会も変わる。多様な生き方を可能にする社会を提言する先駆者」(小島さん)

野崎智成 (36)
Vilingホールディングス副社長
学童保育や教育特化型のベンチャーキャピタル事業を行う。グループ内に財団法人を設立し、教育機関の運営、支援事業も推進する予定。「財団での学校運営は希少」(坪谷さん)

photo 高井正広(上) 李真静、加藤文子(F)

本気の仕事体験
三井物産のグループ企業の社長を務める川島高之さん(50)は、12年に「コチカラ・ニッポン」というNPOを立ち上げた。主な活動は、「筋書きのない子ども社会実習」だ。

高校生の息子がいる。子育てをしながら、「大人は、子どもを特別扱いしすぎてはいないか」「企業は育児への理解をもっと深めるべきではないか」と疑問に感じていた。そこで立ち上げたのが、子どもと企業の橋渡し役となるNPOだった。

中学校のPTA会長だったとき、相談を持ちかけられた。総合学習での出来事だ。日本の食料自給率が低いので、アツ

子どもたちが「米粉の量を増やしたい」と提案すれば、ピロタ側は「シユー生地の強度が足りなくなる」と突き返す。子どもたちの理想と、製造コストとの折り合いをつけるため、お互い何度も話し合った。

野崎智成 (36)
Vilingホールディングス副社長
学童保育や教育特化型のベンチャーキャピタル事業を行う。グループ内に財団法人を設立し、教育機関の運営、支援事業も推進する予定。「財団での学校運営は希少」(坪谷さん)

野崎智成 (36)
Vilingホールディングス副社長
学童保育や教育特化型のベンチャーキャピタル事業を行う。グループ内に財団法人を設立し、教育機関の運営、支援事業も推進する予定。「財団での学校運営は希少」(坪谷さん)

野崎智成 (36)
Vilingホールディングス副社長
学童保育や教育特化型のベンチャーキャピタル事業を行う。グループ内に財団法人を設立し、教育機関の運営、支援事業も推進する予定。「財団での学校運営は希少」(坪谷さん)

野崎智成 (36)
Vilingホールディングス副社長
学童保育や教育特化型のベンチャーキャピタル事業を行う。グループ内に財団法人を設立し、教育機関の運営、支援事業も推進する予定。「財団での学校運営は希少」(坪谷さん)

photo 高井正広(上) 李真静、加藤文子(F)

推薦する人
小島慶子 (42)
タレント、エッセイスト/本誌でコラム「小島慶子の幸福論」を連載中。著書に「大黒柱マザー」[解雇しんどい親から自由になる]など。2児の母で、家族の暮らしオーストラリアと日本を往復する日々を送る

坪谷ニューエル都子
日本国際教育センターCEO/1985年「イングリッシュスタジオ」設立を経て、97年「東京インターナショナルスクール」を設立。世界共通の大学入試資格を得られる「国際バカロレア」の普及推進も行っている

安藤麻也 (52)
ファザリング・ジャパン代表理事/明治大学卒業後、渡米にいた2006年にファザリング・ジャパンを立ち上げ、父親の子育て支援・働き方の支援事業を展開。NPO法人「タイガーマスク基金」代表も。3児の父

甲田恵子 (39)
AsMama社長/1998年関西外国語大学卒。ニフティなどを経て、2009年にAsMamaを創業。顔見知り同士がワンコインで子どもの送迎・託児を依頼できる「子育てシェア」などのサービスを運営。1児の母

野崎智成 (36)
Vilingホールディングス副社長
学童保育や教育特化型のベンチャーキャピタル事業を行う。グループ内に財団法人を設立し、教育機関の運営、支援事業も推進する予定。「財団での学校運営は希少」(坪谷さん)

挫折を知ってほしい
企業がCSR活動に力を入れるなかで、子どもの職業体験は増えた。ただ、多くは「決して失敗することがない、完璧なプログラム」。背景にあるのは、

5カ月後、コメを原材料に使ったシユーアイスが完成。ピロタにとって、創業以来の大ヒット商品になった。

「既成概念に縛られない子どもが、アイディアを生かせば、社会は活性化します。子どもの生き抜く力も伸びるはず」と川島さん。そして、こうも考えるのだ。

失敗を急避する大人たちのマイソッドだろう。すべて思い通りにしたい親たち。だから、親の過干渉も起きる。

少年野球の現場でも、スタメンになれなかったことを、自分が恥をかいたかのように怒る父親が。ママ友の輪から浮きたくないがために、お受験に熱を上げる母親もいる。その結果として生まれるのが、「挫折知らず」の社会人。

「失敗なんて、いくらでも挽回できるのに」(川島さん)

筋書きのない子ども社会実習で、そんな人を一人でも減らしたい。